

定期作況報告

(第5号 令和5年9月20日現在)
地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

令和5年8月下旬から9月中旬までの気象は次のとおりである(表1)。

8月下旬:平年に比べて平均気温は5.9℃高く、降水量は46.0mm少なく、日照時間は16.9時間多かった。夏日(最高気温25℃以上)は11日(うち、真夏日:最高気温30℃以上35℃未満は6日、猛暑日:最高気温35℃以上は2日)であった。

9月上旬:平年に比べて平均気温は2.8℃高く、降水量は16.0mm少なく、日照時間は9.3時間多かった。夏日は9日であった。

9月中旬:平年に比べて平均気温は4.2℃高く、降水量は67.7mm多く、日照時間は15.7時間少なかった。夏日は6日であった。

表1. 気象表

調査項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	25.0	19.1	5.9	21.4	18.6	2.8	19.5	15.3	4.2	22.0	17.7	4.3
最高気温(℃)	31.5	24.8	6.7	28.0	24.6	3.4	25.4	21.3	4.1	28.3	23.6	4.7
最低気温(℃)	20.1	14.5	5.6	15.7	13.4	2.3	14.7	10.0	4.7	16.8	12.6	4.2
降水量(mm)	3.0	49.0	-46.0	16.0	32.0	-16.0	115.5	47.8	67.7	134.5	128.8	5.7
降水日数(日)	2.0	5.6	-3.6	4.0	4.0	0.0	7.0	4.3	2.7	13.0	14.0	-1.0
日照時間(hrs)	71.7	54.8	16.9	66.0	56.7	9.3	31.1	46.8	-15.7	168.8	158.3	10.5

注) 比布アメダス観測値。平年は過去10か年の平均値。

2. 作 況

1) 水稲 平年並

5月20日現在：平年並

事由：播種は平年より2日早い4月14日に行った。出芽の揃いは良好であった。

移植は平年より1日早い5月19日に行った。移植時の草丈は平年より0.8～1.2cm長く、第1葉鞘高は並から0.2cm長かった。葉数と茎数はほぼ平年並であった。苗100本当たりの地上部乾物重は平年より0.35～0.48g重かったが、苗の充実度を示す地上部乾物重/草丈は平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

6月20日現在：平年並

事由：移植後の5月下旬の気温はやや低く推移し、生育は停滞した。その後の気温は6月上旬が平年並、6月中旬が平年よりやや高く推移し、生育は概ね回復した。6月20日時点の草丈は平年より6.0～7.6cm高かったが、 m^2 当たりの茎数は4～13%少なく、主稈葉数は0.1～0.2枚多かった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：平年並

事由：6月下旬の平均気温は平年より高く、日照時間も長かったことから、生育は進んだ。幼穂形成期は平年より2日、止葉期は4～5日、出穂期は5～6日それぞれ早かった。穂揃は良好であった。茎数は平年並から4%少なく、出穂が早まったため草丈は平年より5.9～8.5cm長く、主稈の止葉葉数は0.1～0.4枚少なかった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：平年並

事由：7月下旬以降の平均気温は平年並からやや高く経過し、登熟は順調に進んでいる。稈長は平年より「ななつぼし」で1.5cm短く、「ゆめぴりか」で2.0cm長く、穂長は並から0.7cm長かった。 m^2 当たり穂数は5～7%少なかった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

9月20日現在：平年並

事由：8月下旬の平均気温はかなり高く、登熟期間の平均気温は高く推移したため、成熟期は平年より9日早く、登熟日数は3～4日短かった。「ゆめぴりか」で倒伏が一部発生した。稔実歩合は平年より1.7～2.7ポイント高かった。一穂粒数は「ななつぼし」が4.8%少なく「ゆめぴりか」が5.3%多く、 m^2 当たり稔実粒数は「ななつぼし」が7.1%少なく「ゆめぴりか」が平年並であった。登熟歩合は平年より1.5～3.7ポイント高かった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

表2. 9月20日の水稻の生育

品種名		ななつぼし			ゆめぴりか			
項目 / 年次		本年	平年	比較	本年	平年	比較	
生育期節	播種期 (月.日)	4.14	4.16	△ 2	4.14	4.16	△ 2	
	移植期 (月.日)	5.19	5.20	△ 1	5.19	5.20	△ 1	
	幼穂形成期 (月.日)	6.21	6.23	△ 2	6.22	6.24	△ 2	
	止葉期 (月.日)	7.07	7.11	△ 4	7.07	7.12	△ 5	
	出穂期 (月.日)	7.16	7.21	△ 5	7.15	7.21	△ 6	
	成熟期 (月.日)	8.29	9.07	△ 9	8.30	9.08	△ 9	
	穂揃日数 (日)	6	8	△ 2	7	8	△ 1	
	登熟日数 (日)	44	48	△ 4	46	49	△ 3	
	生育日数 (日)	137	144	△ 7	138	145	△ 7	
移植時	草丈 (cm)	14.7	13.5	1.2	14.4	13.6	0.8	
	葉数 (枚)	4.2	4.1	0.1	4.3	4.2	0.1	
	茎数 (本)	2.0	1.9	0.1	2.0	2.0	0.0	
	第1葉鞘高 (cm)	2.6	2.4	0.2	2.4	2.4	0.0	
	地上部乾物重 (g/100本)	4.88	4.40	0.48	4.78	4.43	0.35	
	地上部乾物重/草丈	0.33	0.32	0.01	0.33	0.33	0.00	
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	8.2	8.0	0.2	8.4	8.3	0.1
		7月20日	10.0	10.1	▲ 0.1	10.2	10.6	▲ 0.4
		止葉葉数	10.0	10.1	▲ 0.1	10.2	10.6	▲ 0.4
	茎数 (本/m ²)	6月20日	467	535	▲ 68	573	597	▲ 24
		7月20日	726	723	3	820	853	▲ 33
	草丈 (cm)	6月20日	45.3	39.3	6.0	44.2	36.6	7.6
7月20日		88.3	82.4	5.9	89.7	81.2	8.5	
成熟期	稈長 (cm)	68.2	69.7	▲ 1.5	68.0	66.0	2.0	
	穂長 (cm)	16.7	16.7	0.0	17.4	16.7	0.7	
	穂数 (本/m ²)	650	682	▲ 32	741	799	▲ 58	
収量構成要素	一穂粒数 (粒)	49.4	51.9	▲ 2.5	45.6	43.3	2.3	
	m ² 当たり粒数 (×千)	32.1	35.3	▲ 3.2	33.8	34.6	▲ 0.8	
	稔実歩合 (%)	96.6	94.9	1.7	94.7	92.0	2.7	
	m ² 当たり稔実粒数 (×千)	31.0	33.4	▲ 2.4	32.0	31.7	0.3	
	同上比 (%)	93	100	▲ 7	101	100	1	
	登熟歩合 (%)	90.3	86.6	3.7	84.4	82.9	1.5	
	籾摺歩合 (%)		80.3			78.3		
	屑米歩合 (%)		2.4			3.8		
収量	精玄米千粒重 (%)		22.3			22.7		
	藁重 (kg/10a)		656			632		
	精籾重 (kg/10a)		852			806		
	精玄米重 (kg/10a)		688			634		
	収量平年比 (%)		100			100		
	検査等級 (等)		1下			2中		

注1) 平年値は前7か年中、令和元年（最凶年）、平成29年（最豊年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”を、▲は平年より“減”を示す。

3) 育苗耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施肥：成苗培土Hを約1.43 (kg/箱) 充填、
成分量 N 0.5、P₂O₅ 1.0、K₂O 0.8、MgO 0.2 (g/箱)、
置床 N 25.0、P₂O₅ 0.0、K₂O 10.0 (g/m²)

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/m² (33.0cm×12.0cm)、3本植

施肥量：N 8.0、P₂O₅ 9.7、K₂O 6.9 (kg/10a)、堆肥 1000 (kg/10a)

5) 精玄米千粒重および精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算。

2) 春まき小麦 やや良

5月20日現在：やや不良

事由：播種は平年より2日遅い4月20日に行った。播種の遅れを反映して出芽期も平年より2日遅く、草丈、莖数とも平年をやや下回った。

したがって、目下の作況は「やや不良」である。

6月20日現在：平年並

事由：5月中旬および6月中旬が高温・乾燥で推移した影響を受け、出穂期は平年より1日早かった。平年と比較して草丈はやや短い、莖数はやや多かった。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：平年並

事由：6月下旬において、6月28～30日の降雨まで高温・乾燥で推移した影響を受け、稈長は平年より短かった。穂長もやや短かったが、穂数は平年を上回った。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

なお、6月29日および7月11日のまとまった降雨により、全面倒伏した。

8月20日現在：良

事由：成熟期は平年より3日早かった。出穂も1日早く登熟期間はほぼ平年並であり、また前報のとおり倒伏が甚発生となったが、子実重は平年比116%であった。

したがって、目下の作況は「良」である。

9月20日現在：やや良

事由：前報の通り子実重は平年比116%と多収であり、蛋白質含有率は平年並であったが、千粒重は平年を大きく下回り、容積重もやや軽かった。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

表3. 9月20日の春まき小麦の生育

品 種 名 項 目 / 年 次		春よ恋		
		本 年	平 年	比 較
播種期 (月.日)		4.20	4.18	2
出芽期 (月.日)		5.03	5.01	2
出穂期 (月.日)		6.17	6.18	△ 1
成熟期 (月.日)		7.25	7.28	△ 3
草丈 (cm)	5月20日	19.8	22.5	▲ 2.7
	6月20日	75.7	82.0	▲ 6.3
茎数 (本/m ²)	5月20日	579	671	▲ 92
	6月20日	792	735	57
成熟期	稈長 (cm)	82	97	▲ 15
	穂長 (cm)	7.8	8.4	▲ 0.6
	穂数 (本/m ²)	603	503	100
子実重 (kg/10a)		521	448	73
同上平年比 (%)		116	100	16
容積重 (g/L)		799	826	▲ 27
千粒重 (g)		35.0	39.3	▲ 4.3
蛋白質含有率 (%)		11.5	11.7	▲ 0.2
検査等級 (等)			1	

注1) 平年値は前7か年中、平成28年（最豊年）、令和3年（最凶年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”、▲は平年より“減”を示す。

3) 大豆 やや良

5月20日現在：

事由：播種は、平年より1日早い5月18日に行った。

6月20日現在：やや良

事由：播種後に適度な降雨があったことから出芽期は平年より2日早い5月30日となった。主茎長は平年より長く、主茎節数は平年並であった。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

7月20日現在：やや良

事由：6月中旬から下旬の気象が高温多照で経過したことから、開花期は平年より6日早い7月7日となった。主茎長は平年に比べ長く、主茎節数は平年並で、分枝数は多かった。なお、6月29日および7月11日の豪雨により試験区の一部が倒伏した。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

8月20日現在：やや良

事由：主茎長は平年に比べ長く、主茎節数は平年並で、分枝数および着莢数は多かった。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

9月20日現在：やや良

事由：開花期が平年より早かったこと、8月下旬から9月上旬の気温が高温で推移したことから、成熟期は平年より9日早い9月8日となった。成熟期の主茎長は平年よりやや長く、主茎節数および分子数は平年並で、着莢数は多かった。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

表4. 9月20日の大豆の生育

品 種 名		ユキホマレ		
項 目 / 年 次		本年	平年	比較
播種期 (月.日)		5.18	5.19	△ 1
出芽期 (月.日)		5.30	6.01	△ 2
開花期 (月.日)		7.07	7.13	△ 6
成熟期 (月.日)		9.08	9.17	△ 9
主茎長 (cm)	6月20日	17.4	13.0	4.4
	7月20日	62.3	54.7	7.6
	8月20日	63.4	59.1	4.3
	9月20日	61.3	58.3	3.0
	成熟期	61.3	58.3	3.0
主茎節数 (節)	6月20日	3.9	3.7	0.2
	7月20日	10.0	9.6	0.4
	8月20日	10.4	10.2	0.2
	9月20日	10.3	10.2	0.1
	成熟期	10.3	10.2	0.1
分枝数 (本/株)	7月20日	7.4	5.6	1.8
	8月20日	7.5	6.4	1.1
	9月20日	6.3	6.1	0.2
	成熟期	6.3	6.1	0.2
着莢数 (個/株)	8月20日	93	84	9
	9月20日	107	77	30
	成熟期	107	77	30
子実重 (kg/10a)			400	
同上平年比 (%)			100	
百粒重 (g)			33.6	
屑粒率 (%)			1.4	
検査等級 (等)			2中	

注1) 平年値は前7か年中、平成29年（最豊年）、令和3年（最凶年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”を示す。

4) 小豆 平年並

6月20日現在：平年並

事由：播種は、平年より2日遅い5月25日に行った。播種の遅れを反映して出芽期も2日遅かったが、6月上旬の降水量が多く十分な土壌水分が確保できたことと、6月中旬の気温が高く推移したことから、主茎長、本葉数とも平年並であった。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：やや良

事由：6月下旬のまとまった降雨で土壌水分が十分に確保され、主茎長は平年を上回った。本葉数も平年より多く、分枝数は平年並であった

したがって、目下の作況は「やや良」である。

8月20日現在：平年並

事由：開花期は平年より1日遅かった。主茎長および本葉数は平年をやや上回っているが、分枝数および着莢数はほぼ平年並であった。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

9月20日現在：平年並

事由：成熟期は平年より11日早かった。主茎長は平年より長く、主茎節数、分枝数および着莢数は平年並であった。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

表5. 9月20日の小豆の生育

品 種 名		エリモシヨウズ		
項 目 / 年 次		本年	平年	比較
播種期 (月.日)		5.25	5.23	2
出芽期 (月.日)		6.11	6.09	2
開花期 (月.日)		7.25	7.24	1
成熟期 (月.日)		9.03	9.14	△ 11
主茎長 (cm)	6月20日	5.0	4.4	0.6
	7月20日	30.6	24.0	6.6
	8月20日	67.4	61.8	5.6
	成熟期	76	69	7.0
本葉数 (枚)	6月20日	1.0	0.7	0.3
	7月20日	8.7	7.5	1.2
	8月20日	13.2	12.5	0.7
主茎節数 (節)	成熟期	13.5	13.5	0.0
分枝数 (本/株)	7月20日	5.6	5.4	0.2
	8月20日	5.9	6.0	▲ 0.1
	成熟期	5.9	6.2	▲ 0.3
着莢数 (個/株)	8月20日	61	58	3
	成熟期	52	54	▲ 2
子実重 (kg/10a)			350	
同上平年比 (%)			100	
百粒重 (g)			14.2	
屑粒率 (%)			4.1	
検査等級 (等)			2中	

注1) 平年値は前7か年中、平成29年(最豊年)、令和3年(最凶年)を除く5か年の平均値。